

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議は事業所の所在地にある自治会の役員の方に構成員として参加して頂き、運営状況などご理解頂けているが、隣接する隣町の方には事業所の存在を認知して頂けていない状況にある。	地域密着型サービスとして、事業所の存在をご理解頂くため、隣接する地域の方にも運営推進会議の構成員として参加を要請する。	・隣町の自治会長、民生委員の方に運営推進会議に参加して頂けるように声をかける。 ・運営推進会議にて何度か足を運んで頂くことで、事業所に入りやすい雰囲気をつくる。地域のイベントにも参加。交流を深め、地域とのなじみの関係を作っていく。	12ヶ月
2	11	管理者が職員個別面談(年に2回)、日ごろから職員の様子でコミュニケーションを多くとるようにし、ケアの考え方、新たな取り組み、モチベーションを伝えることができているが、その場だけの話し合いになってしまっている。	事業所管理者だけでなく理事長、事務長、直属の上司に対しても、職員の意見を組織的に反映できる仕組みをつくる。	・個別面談記録をしっかりとる ・人事考課表などを導入し評価結果をしっかりと公表することを検討していく。	12ヶ月
3	33	終末期ケアの経験がまだないが、開設からのご利用している方も多く、高齢化・重度化してきている。終末期ケアの家族からのご意向もあり、今後家族、介護職員、医療従事者でどのような支援ができるか話し合う時期をむかえている。	終末期ケアを対応するに当たって、家族、職員、医療従事者とよく話し合い、どこまでできてどこまでできないのか線引きを明確化していき、本人、ご家族に納得できる説明をさせて頂く。	・終末期ケアの同意書として「重度化・終末期対応指針」を法人で作成しているが内容の再確認を行う。	12ヶ月
4	54	ご家族の協力のもと居室になじみの家具やTVなど置いて過ごしやすい環境を整えている方もいるが、全体的に少ない。ご利用者の趣味や興味、生活歴を踏まえ、ご本人にとって一層心地の良い居室づくりの検討の必要性がある。	ご家族に協力頂き、ご利用者が居室にいても快適に心地良く過ごせる空間を作っていく。	・ご家族に面会時や担当者会議を設けたり、ご本人の生活歴や趣味などの情報を多く聴き取る。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。